



今、気候変動や資源の問題が深刻化する中で、未来を守るには一人ひとりの行動が欠かせません。小さな選択が、横浜の、そして地球の未来につながります。

環境にやさしい行動をできることからはじめてみませんか？

YOKOHAMA GO GREEN 10Action

詳しくはこちら



01

自宅の
節電・省エネ



02

徒歩、自転車、
公共交通機関で
かける



03

横浜産を選んで、
地産地消



04

長距離の
移動・輸送を
考える



05

食品ロス
を減らす



06

リデュース・
リユース・
リサイクルの推進



07

自宅を再エネ・
省エネハウスへ



08

次世代自動車
を利用する



09

環境に優しい
製品・サービスを
選択する



10

地域の環境や
生き物を守る
活動に参加する



横浜市では、脱炭素・環境施策を推進するための合言葉として、「YOKOHAMA GO GREEN」(＝環境にやさしい行動をとる)を掲げ、一人ひとりが環境にやさしい行動を実践することを目指しています。

未来につながる新たな暮らしを横浜からつくっていきましょう！

横浜で行われている、地球にやさしい暮らしを実践する先駆的な活動や習慣、そして、横浜の皆様とチャレンジする新しいアクションを「STYLE」として発信しています。
「STYLE100」の取組やアクションを参考に、身近なことから試したり、参加したり、誰かに話したり。そんな輪を広げていきませんか？



輪が広がっています！

地球1個分で暮らそう
STYLE 100
CITY OF YOKOHAMA



詳しくはこちら



**GREEN
X
EXPO
2027**
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会
横浜・上瀬谷 2027.3.19—9.26
Expo 2027

環境管理計画や年次報告書の
詳しい情報はウェブページで！

横浜市環境管理計画



※環境管理計画や環境管理計画年次報告書の冊子は、市庁舎市民情報センター、各区役所広報相談係、各市立図書館でもご覧いただけます。

CO₂
YOKOHAMA
GO GREEN

横浜市みどり環境局戦略企画課

〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10

TEL 045-671-4102 2025年12月発行

横浜市環境管理計画は環境分野の総合計画です。

この計画では「人・地域社会」「経済」「まちづくり」の

総合的な3つの視点を持ち、

地球温暖化対策や生物多様性、水とみどりなど

様々な環境の取組を進めています。

横浜市みどり環境局戦略企画課

1 人・地域社会

環境にやさしいライフスタイルの実践や
地域の環境活動を支援

公園、水辺、市民の森などでの愛護会等の環境活動団体による環境保全活動への支援や、スポーツチーム等と連携した親しみやすい広報による普及啓発などを進めました。

また、地域で様々な環境活動を積極的に実践する市民、企業を表彰しました。



横浜DeNAベイスターズと連携した
環境行動啓発ポスター

様々な団体が活動しています(2024年度末時点)

公園愛護会	2,533 団体
水辺愛護会	99 団体
市民の森愛護会	35 団体
ふれあいの樹林愛護会	12 団体
森づくり活動団体	35 団体
ハマロード・サポーター	595 団体
環境事業推進委員	3,641 人

2 経済

環境分野の取組による市内経済の
活性化と地域のにぎわいづくりを推進

大都市でありながら水・緑に恵まれた自然環境、歴史的景観や動物園などの地域資源を生かしたシティプロモーションを展開し、街の活性化につなげています。

また、横浜市SDGs認証制度“Y-SDGs”を通じて、事業者の持続可能な経営・運営への転換等の支援を行ったほか、上下水道や廃棄物管理に関する技術協力で、新興国の都市課題解決や市内企業の海外ビジネス展開を支援しました。



横浜フラワー&ガーデンフェスティバル
2024



インドネシア国における
安全な24時間給水に向けた技術協力

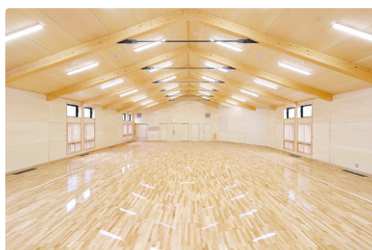
3 まちづくり

環境と調和・共生した、環境にやさしく
災害に強いまちづくりを推進

都心臨海部における脱炭素化の取組や、郊外部の豊かな自然環境や良好な街並み等を生かした住環境の形成など、地域特性に応じたまちづくりを進めました。また、環境にやさしい交通・物流環境の形成、環境に配慮した建築物等の普及、計画的な雨水幹線等の整備に加え、グリーンインフラ(自然環境が持つ多様な機能)を活用した取組を進めました。



地域輸送資源の活用(戸塚区ひがまた号)



木造で整備した東野中学校武道場



地球温暖化対策

化石燃料に過度に依存しないライフスタイルへの転換

重点施策

2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、水素で走る燃料電池自動車（FCV）の導入補助や、17市町村との再生可能エネルギー連携、PPAを活用した太陽光発電設備の導入、電気自動車（EV）に乗りやすい環境整備など様々な取組を進めました。

2023年度の市域の温室効果ガスの排出量は1,615万t-CO₂と、基準年度(2013年度)比では25%の減少となり、2013年度以降で過去最少となりました。



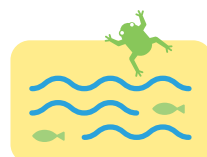
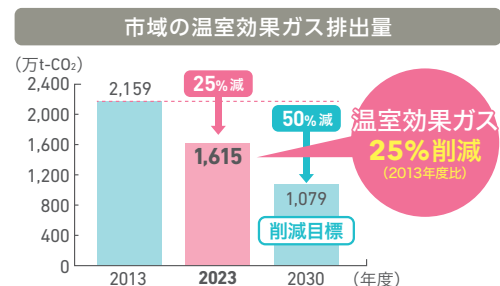
PPA事業で市立学校に導入した太陽光発電設備



中区新港中央広場公道充電ステーション



省エネ住宅セミナー



生物多様性

身近に自然や生き物を感じ、楽しむことができる豊かな暮らし

重点施策

生き物の生息・生育環境を守り、生物多様性の向上に寄与するために、樹林地や農地の保全・再生の取組を進めました。また、SNSを活用した情報発信や動画配信、学習会などを通じて生物多様性の理解を深めるきっかけづくりを実施しました。



天然記念物ミヤコナガ(横浜産)



外来生物を学ぶ「ザリガニ調査隊」(金沢動物園)

調査への参加
市内小学校
164校
児童
10,188人



こども「いきいき」生き物調査2024



水とみどり

自然の恵みを楽しむ環境の保全・再生・創造

土地所有者の負担を軽減する緑地保全制度などによるまとまりのある樹林地の保全や、市民と連携した樹林地の維持管理・活用を推進しました。また、市民協働による川づくりのほか、グリーンインフラ(自然環境が持つ多様な機能)を活用した取組などによる水循環の再生を進めました。

まとまりのある
樹林地の保全
新規指定
49.5ha



追分特別緑地保全地区(旭区)



川づくり活動(旭区 中堀川)

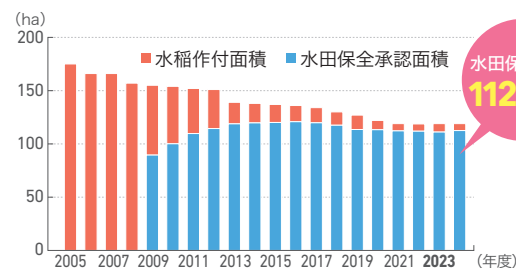


都市農業

活力ある都市農業を未来へ

都市農業の担い手の育成や、賃借による農地の利用促進など持続できる都市農業を目指した取組を進めました。

また、多様な市民ニーズに合わせた農園の開設や、横浜の農を学び楽しむ市民・企業等と連携した地産地消などの取組を進めました。



「はまぶどうコンシェルジュ」(地産地消の案内人)の育成



環境教育・学習

持続可能な社会の実現に向けて、自ら考え、具体的な行動を実践する人づくり

環境を学ぶ場や、環境に市民が関わる場が広がるよう、環境教育出前講座の実施、学校教育におけるSDGs達成の担い手育成(ESD※)など、様々な主体との協働による取組を展開しました。

※ Education for Sustainable Development



環境学習プログラムを利用した出前教室



ひまわり栽培交流(港南区)



資源循環

循環型社会の構築

3Rを推進するため、食品ロスやプラスチックごみの削減の普及啓発などを進めました。2024年度のごみと資源の総量は約111万tと、2009年度と比較して13.2%減少しました。

	2009年	2024年
ごみと資源の総量	127.5万t	110.7万t



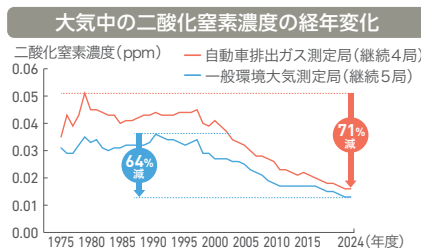
ごみ分別啓発イベント



生活環境

安全で安心・快適な生活環境の保全

環境法令に基づく事業者への規制・指導や下水道の高度処理化など、環境負荷の低減に取り組みました。市内の大気や河川・海域の水質などの環境の状況は長期的に見て改善傾向となっています。



東京湾環境一斉調査



横浜市ESD推進コンソーシアム交流報告会(児童生徒の部)

